

改革先導拠点校② 米沢鶴城高校

～地域産業のDXと持続可能な「ものづくり」を牽引する次世代リーダーの育成～

- 置賜地域の企業においては、事業承継を担う後継者の不足や、地域産業のDX化・デジタル活用を牽引するリーダー人材の育成が課題となっている。
- 本校においては、「高度な専門スキル×デジタル活用能力×経営感覚」を兼ね備え、DXを活用した課題解決と高付加価値化を通じて、置賜地域の産業構造転換を牽引する「次世代リーダー」の育成に取り組む。

人材育成の現状・課題

- 米沢市の産業別就業人口に占める第二次産業就業の割合は35.0%であり、高卒求人倍率は4.83倍と、いずれも県内で最も高い水準にある。市内には「米沢八幡原中核工業団地」が立地し、半導体関連企業をはじめとする製造業が集積している。さらに、「第4期米沢市工業振興計画」では、新たな産業団地の整備を進めるとともに、研究開発型企業を中心に、半導体関連産業やDX・GX関連産業などの成長産業の積極的な誘致を推進している。
- 米沢市が実施した市内中小・小規模企業向けアンケートでは、DXの導入・活用に当たり、「活用スキルの不足」や「活用人材の不足」が大きな課題として挙げられている。また、2割を超える事業者が、後継者不在等を理由として、廃業や事業譲渡を検討している状況にある。

具体的な取組内容

【本校における改革目標】

本校がこれまで「マイスター・ハイスクール事業」等を通して培ってきた**地域・産業界と本校との協力関係を基盤**として、高校・専攻科・大学・地域企業等が一体となって次世代のリーダーを育成する**「循環型人材育成システム」**の構築を目指す。

- ① **高校段階での基盤形成** → 工業・商業の枠を超えたものづくり、データサイエンスを学び、課題解決力の基礎となる多面的な視点を養成。
- ② **専攻科段階での実践力強化** → ものづくりを高付加価値化する力を養成。
- ③ **大学連携による視座の引上げ** → 知的好奇心と専門性を向上、進学意識を醸成。
- ④ **人材育成の循環** → 地域全体で人材を育む循環型の人材育成システムを構築。

【教育改革の内容】

実習内容を刷新し、半導体・DX・ロボット技術等の成長分野に対応する。**「仮称・米沢地域産業振興センター」を活用**し、製品やアプリの実用化や起業に挑戦する。さらに、地域企業と連携し、企画・生産・販売のプロセスを一体的に体験・実践する商工一体の課題研究を実施する。加えて、中学生と保護者に対してキャリア形成の道筋を可視化し、積極的に発信する。

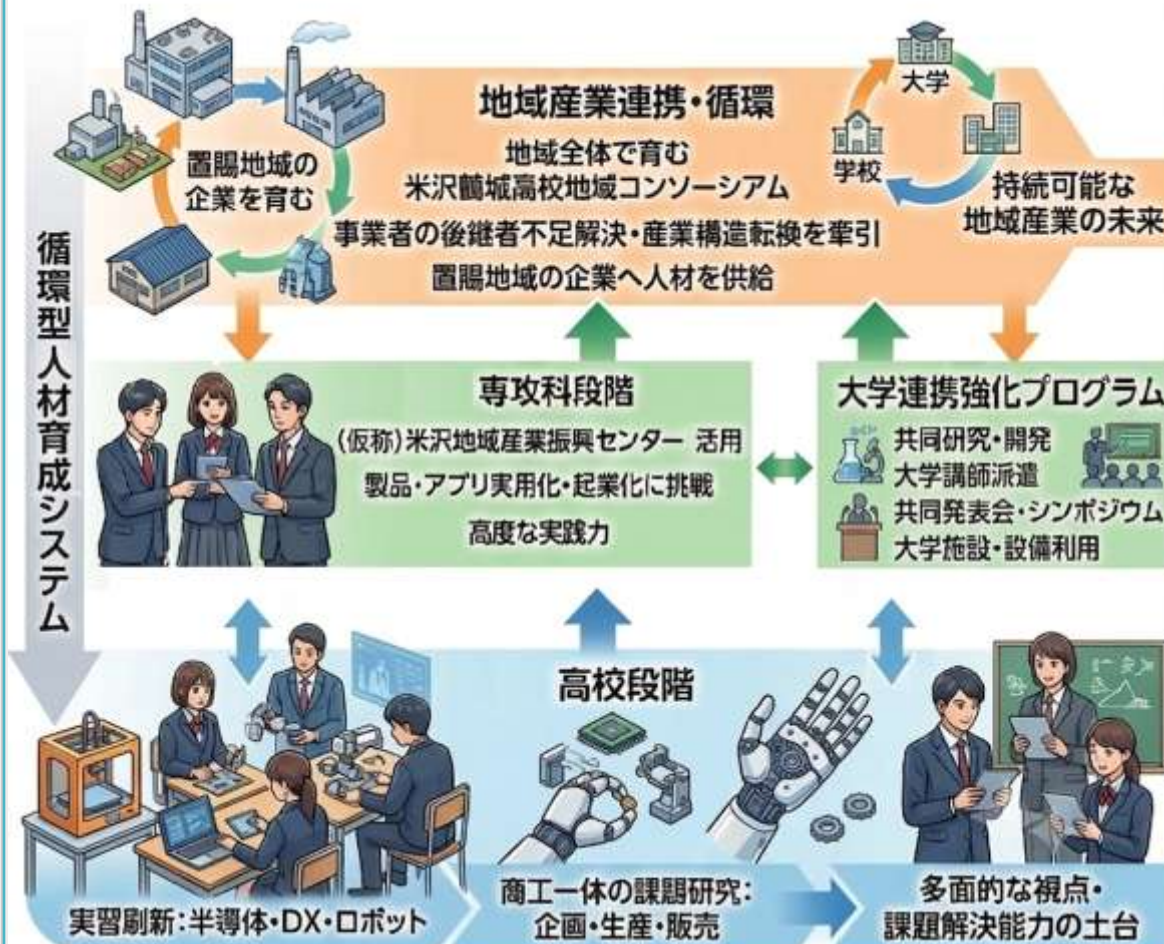
【施設整備の内容】

大視聴覚室を「300人規模の階段教室」に改修し、学科横断の学習環境を整備する。**「イノベーションラボ（仮称）」を新設**し、3Dプリンターやレーザー加工機等の先端ファブリケーション機器を備えた実習環境を整備する。

【他校への普及方策】

合同課題研究・講義共有、施設設備開放、商工融合型学習モデルのノウハウ共有

改革後のイメージ



協力・連携体制

協力校	山形県立置賜農業高等学校、山形県立長井工業高等学校
主な連携機関等	米沢市、米沢商工会議所、一般社団法人米沢観光コンベンション協会、協同組合米沢市商店街連盟、協同組合米沢市総合卸売センター、米沢繊維協議会、一般社団法人山形県建設業協会米沢支部、置賜地区雇用対策協議会、山形大学工学部、山形県立米沢栄養大学、山形県立米沢女子短期大学 等